

国立国語研究所学術情報リポジトリ
日中バイリンガル児の中国語の発達に関する事例研究:
物の受け渡しにおける「図 (ありがとう)」に着目して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-01-07 キーワード (Ja): キーワード (En): Children's Conversation Corpus 作成者: 滕, 越, 小磯, 花絵, TENG, Yue メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003504

日中バイリンガル児の中国語の発達に関する事例研究 物の受け渡しにおける「謝謝（ありがとう）」に着目して

滕 越（東京大学大学院総合文化研究科/国立国語研究所音声言語研究領域）[†]

小磯 花絵（国立国語研究所音声言語研究領域）

Chinese Acquisition of a Japanese–Chinese Bilingual Child A Case Study on “Xie Xie (Thank You)” in Giving and Receiving

Yue Teng (The University of Tokyo/National Institute for Japanese Language and Linguistics)

Hanae Koiso (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

要旨

本研究では、日中バイリンガル家庭で育つ幼児の中国語の発達について検討する。バイリンガル児の言語発達については、音韻や語彙、統語面からの分析があるが、養育者とのコミュニケーションの中でどのように言語発達が進むかについての研究は不十分である。本研究では、一事例として、日本語母語話者の母親と中国語母語話者の父親の間に育つ女児1名（1歳7か月から2歳0か月）の「謝謝（ありがとう）」の使用を分析した。その結果、(1)相互行為上、「謝謝」は主に養育者から物を受け取った後に使用されるが、物を渡した後や受け取る前にも産出されることがある、(2)構文の面では、成人の典型的な用例以外にも、「謝謝+物を受け取った側」、「物を渡した側+謝謝+物を受け取った側」など、多くのバリエーションがある、(3)養育者は中国語能力にかかわらず女児の「謝謝」使用に対し肯定的であるが、中国語能力に応じて異なる役割を担っていることが明らかになった。

1. はじめに

本研究は、日中バイリンガル家庭で育つ子どもの中国語の発達について検討する事例研究である。バイリンガル児の言語発達については、認知的側面や言語環境の影響、音韻や語彙、統語面からの分析があるが、養育者とのコミュニケーションの中でどのように言語発達が進むかについての研究は不十分である。

国立国語研究所では現在、子どものコミュニケーション行動の解明に向けた、映像・音声を含むコーパスの構築を進めているが¹、調査協力世帯のうち、1世帯は日中バイリンガル環境で子どもを養育している（詳細は小磯ほか、2020）。本研究では、一事例として、この調査協力世帯の日中バイリンガル児を対象に、物の受け渡し場面に現れる「謝謝（ありがとう）²」の、養育者とのやり取りにおける特徴について論じる。

以下、2節で本研究の背景、3節で調査協力世帯とデータの概要について説明する。4節では物の受け渡し場面における日中バイリンガル児の「謝謝」使用の実例を提示し、やり取りにおける位置、構文、養育者の役割、という3つの観点から特徴を示す。5節では対象児の物の受け渡しのやり取りにおいて、「謝謝」が選好される理由について先行研究を踏まえて論じ、6節で本稿をまとめ、今後の課題を示す。

[†]yteng*ninjal.ac.jp (*は@にご変更ください)

¹ 本コーパスを用いて、すでに子どもと養育者会話の「要求-拒否」のやり取りや（居關・小磯、2020）、作業遂行時における子どもと母親の会話の特徴についての研究（田中ほか、2021）などが行われている。

² 以下、特筆する事項がない場合は中国語表記の「謝謝」を用い、和訳はつけない。

2. 研究の背景

2.1 日中バイリンガル児の言語発達について

バイリンガル児の言語発達については、言語知識獲得の認知的側面や獲得の時期、語彙、文法における特徴、コードスイッチングなどの視点から様々な研究が行われているが (Volterra & Taeschner, 1978; Genesee, 1989; Juan-Garau & Perez-Vidal, 2001)、日中バイリンガル児を対象としたものは少ない。王 (2019) では、日本で中国語母語話者夫婦の間に生まれ育ち、日本の保育園に通う男児 1 名の、1 歳 7 か月から 2 歳 1 か月までの語彙発達について、母親による発話の観察、記録を通して、その特徴を考察している。その結果、日本語と比べ、中国語のほうが語彙量、品詞の種類の双方で上回っており、それには中国語のインプット量が日本語よりも多いことが関係していることや、単音節語や重複音節の語を多く学習していることを明らかにしている。

高 (2021) では、高度な日本語能力を持つ中国語母語話者の夫婦の間に生まれ、日本で育つ女児 1 名の、2 歳 3 か月から 2 歳 11 か月にかけての両言語の語彙発達について、縦断的な質問紙調査を行っている。結果として、家庭内養育がメインであった時期は中国語が優位、日本の保育園に通うようになると日本語が優位になる、という言語環境の影響があることや、品詞的特徴について、表出語彙は日中両言語ともに名詞が動詞より若干優位であるが、中国語の理解語彙は動詞が名詞よりも優位である可能性を示した。

このように、日中バイリンガル児の二言語発達については、表出・理解語彙の品詞・音韻的特徴、言語環境が両言語の習得に与える影響などが明らかになりつつあるが、先行研究は観察や質問紙の方法を使用しており、養育者とのやり取りの中で、二言語の習得がどのように進むかについては検討がなされていない。また、先行研究の対象児は、家庭内では主に中国語、保育園などで日本語が使用される言語環境で育つが、家庭内でも日中両言語が使用される言語環境で育つバイリンガル児の言語発達についての研究は不十分である。

2.2 物の受け渡し場面と「謝謝」について

本研究では、物の受け渡し場面における「謝謝」の使用について論じるが、まずは子どもの発達における「物の受け渡し」について簡単に説明する。

物の受け渡しは、共同注意 (joint attention) の発達に伴い、子どもの発達の比較的初期段階、通常生後 9 か月ごろから現れる行動である (岩立・小椋, 2005; バックレイ, 2004)。生後 10 か月から 18 か月の間には、指差しや声出しなどを通して養育者に物を渡すよう要求したり、自分が持っている物を養育者に渡したりするなどのコミュニケーションを行うことが明らかになっている (バックレイ, 2004)。

次に、「謝謝」について説明する。「謝謝」は「xiè xie」と発音される 2 音節語で、「ありがとう」とほぼ同義である。中国語で多く用いられる感謝の表現で、恩恵を受けた側の話者が、恩恵を与えた側の話者に対して発することが一般的である。品詞としては動詞で、子どもの言語発達の初期段階に関わる用例としては、構文的に以下の 4 つのパターンがある³：

³ 「謝謝」はこれ以外にも、複文の中でも使用されることがあるが、ここでは詳述しない。用例は CCL コーパス (北京大学中国言語学コーパス http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/) で検索した。

(1) 「謝謝」の単独使用

A: 祝您身体健康, 永远快乐 !

【あなたの健康と末永き幸せをお祈りします。】⁴

B: **謝謝!**

〈出典〉 CCL コーパス 当代\口语\对话\李敖对话录.txt
(発話者名は筆者が改変。強調は筆者による、以下同様。)

(2) 「謝謝」+感謝される対象

謝謝刘老师 !

【ありがとう、劉先生 !】

〈出典〉 CCL コーパス \当代\口语\对话\梁冬对话刘力红第二讲.txt

(3) 感謝される対象+「謝謝」(+你: あなた)

大伯, **謝謝**你 !

【おじさん、ありがとう !】

〈出典〉 CCL コーパス \当代\史传\李文澄 努尔哈赤.txt

(4) 感謝する主体+「謝謝」+感謝される対象

我 **謝謝** 你们和你们的父母。

私 ありがとう あなたたちとあなたたちの両親

【私はあなた方とあなた方のご両親に感謝しています。】

〈出典〉 CCL コーパス \当代\报刊\人民日报\1996年人民日报\2月份.txt

中国語は SVO 言語であり、「謝謝」は動詞であることから、まずは(4)のような「(主語) 感謝する主体+謝謝+(目的語) 感謝される対象」の構文がある。主語位置の「感謝する主体」は省略されることも多く、(2)の「謝謝+感謝される対象」の構文も多い。また、主語が省略される場合は、感謝される対象を前置することも可能で、(3)のような「感謝される対象+謝謝」の構文も使用される。また、(1)のような、「謝謝」の単独使用の事例も多い。以下、4. 2 節でバイリンガル児の「謝謝」使用の構文的特徴についても述べる。

3. 研究協力世帯及びデータの概要

現在筆者らは、子どものコミュニケーション行動の解明に向けたコーパスの構築を目指している。調査協力世帯で、子どもを中心とした相互行為などのデータを、映像・音声を含めて収録し、子どもと両親、祖父母、子どもの友人やその親とのやり取りのデータを収集している。協力者のうち 2 世帯では、バイリンガル環境で子どもを養育している（詳細は小磯ほか、2020 を参照）。

本稿では、そのうちの一人、ユウナ⁵と、両親及び祖父母とのやり取りについて分析する。

⁴ 中国語の用例・発話については、初出時、【】内に和訳を示す。必要な場合は逐語訳も当てる。

⁵ 日本語の会話ではカタカナ表記「ユウナ」を用い、中国語の会話では漢字表記「優那」を用いる。日本語の「ユウナ」と、中国語の「優那 (Yōu nà)」は発音が類似しているため、判別が難しい場合は話者の言語能力に応じて表記言語を使い分ける。なお、いずれも本稿の分析のために設定した仮名である。

ユウナは、日本語を母語とする母親と、中国語を母語とする父親の間に日本で生まれ、日本で育てられている。ユウナへの養育言語は、母親が主に日本語、父親は主に中国語を使用する、「1人1言語使用」の方式をとっている (Oksaar, 1989; マーハ・山本, 1991)。ユウナの母方の祖父母（日本語母語話者）も同じ都市に居住し、週に数回食事の際などにユウナ家を訪ねる。以下、調査協力世帯の家族構成、言語能力と使用について表1にまとめる。

表1 調査協力世帯の家族構成、言語能力及び言語使用

	年齢 年代	会う頻度	日本語能力・使用	中国語能力・使用	ユウナとの 言語使用
ユウナ	1;7-2;0	—	—	—	—
母	30代	同居	母語	3年間中国での生活経験あり 夫婦間の会話は主に中国語	主に日本語
父	20代	同居	(収録時点で) 2年以上日本で生活・仕事	母語 夫婦間の会話は主に中国語	主に中国語、簡単な語彙、指示は日本語の場合も
祖母	60代	週に数回	母語	N/A	日本語
祖父	60代	週に数回	母語	N/A	日本語

本稿の分析では、ユウナが1歳7か月から2歳0か月にかけて収録されたデータ（1か月に1時間程度の収録で、計5時間35分）を扱う。データの中から、物の受け渡し場面での「謝謝」の使用を取り出し、相互行為上の特徴について論じる。必要であれば、発話だけでなく、身体行動も分析に含める。

4. 日中バイリンガル児の「謝謝」使用の特徴

本節では、日中バイリンガル児の、物の受け渡し場面における「謝謝」の使用について、その相互行為上の特徴を論じる。4.1から4.3節では、それぞれ、「謝謝」が相互行為において使用される位置、構文上の特徴、養育者が果たす役割について論じる。

4.1 相互行為における「謝謝」の使用の位置

まずは、「謝謝」の相互行為上の位置の特徴について論じる。成人会話の物の受け渡し場面では、「謝謝」は典型的には物を受け取った後、受け取った側の話者から発せられる。〔断片1〕では、成人の典型的な用法と同じように、ユウナが父親から物を受け取った後に「謝謝」と発している。

〔断片1〕 ふきん（会話ID:Y005_003, 1歳7か月）

- 01 父: ((キッチンにいる母に食器を渡し、ふきんを受け取る))
 02 母: hh
 03 (0.3)
 04 父: 小心啊 ((母親への発話))
 【気を付けて】
 05 *(1.8)+(2.4)+*

- 父⁶ *手に持ったふきんを広げ、テーブルを拭く*
 ユウ +右手をふきんに向かって伸ばし、父と同じような動きをする+
 06 ユウ: あい
 07 +(0.3) *(0.4)*
 ユウ +ふきんをつかみ、断片の終了まで手に持ちつづける
 父 *ふきんから手を引き、ユウナに渡す*
 08 父: [°ありがとう]
 09 母: [ユウナがや]るのね=
 10 父: =謝謝.
 11 (1.1)
 12 →ユウ: 謝謝*
 父 *うなずいた後、ユウナに向かって親指を立ててグッドマーク

〔断片1〕は、家族3人での食事の後の片づけ場面である。01-04行目で、父親はキッチンにいる母親に空になった食器を渡し、それと引き換えにふきんを受け取っている。05行目で父親は手に持ったふきんを広げ、テーブルを拭き始めるが、ユウナも少し遅れてふきんに右手を伸ばし、父親の真似をして空中で手を動かし、テーブルを拭くような動きをする。その後、06-07行目で「あい」という声とほぼ同時にふきんをつかみ、それを受け父親がふきんから手を引きユウナに手渡す。

ふきんを手渡した後、父親は08行目にまず日本語で、小さめの声で「ありがとう」と発する。この発話は09行目の母親による、ユウナがふきんでテーブルを拭くことを承認する発話と重なっており、ユウナからは特に反応はない。その後10行目で父親は、今度は中国語で「謝謝」と発する。しばしの沈黙ののち、12行目でユウナも「謝謝」と発する。その発話を受け、父親はユウナに対してうなずき、親指を立てて賞賛のスタンスを示す。

この断片でのユウナの「謝謝」は、成人の典型的な用法と同じように、物を受け取った後に出現しているが、父親の発話の後に真似をして発している、という点、加えて、07行目で父親がふきんから手を離した時点で受け渡し行動が完了しているとすると、「謝謝」を発するまでにかなりの間がある、という点から、明確に「物を受け取ったことに対する謝意」を示しているとは考えにくい。しかし、物の受け渡し場面で感謝表現を使用することがある程度わかっており、その場面で父親が「謝謝」と発したため、それを真似る形で繰り返した可能性もある。

次に、同じく物の受け渡しが完了した後に発せられるが、ユウナが物を受け取った側ではなく、渡した側である事例〔断片2〕を提示する。

- 〔断片2〕ブレスレット (Y005_007, 1歳11か月)
 ((母子2人の場面。母親はダイニングのテーブルの方で椅子に座っている。ユウナは少し離れて、リビングで立ったままパンを食べており、手にはブレスレットを持っている))
- 01 ユウ: ((座っている母親の方に向かって歩いてくる))
 02 ユウ: ん
 03 +(1.9)+
 ユウ +左手を母親の方に向かって伸ばし、持っていたブレスレットを渡す+
 04 母: †ありがと
 母 †ブレスレットを受け取り、左手につける†

⁶ 身体行動はゴチック体で示す。

- 05 (1.8)†

06 →ユウ: +謝謝妈妈?.+
【ありがとうママ】

ユウ +顔をあげて母親の顔を見る+

07 (0.6)

08 →ユウ: 謝謝妈妈.

09 母: ん?(0.3)謝謝妈妈って言つた?
母 †ユウナの頭をなでる†

10 (2.3)†

11 ユウ: ど+うぞ?
ユウ +手に持っていたパンをテーブルのお皿の上に置く

この事例はユウナが母親と2人で遊ぶ場面である。05行目、07行目でユウナは「謝謝妈妈」と発話しているが、その前の02-03行目で、自分が持っていたブレスレットを母親に手渡している。母親はそれを受け取り、自身の左手に装着する(04行目)。母親がブレスレットを受け取ったのを見て、ユウナは2度「謝謝妈妈(ありがとうママ)」と繰り返す(06、08行目)。成人の場合は、物を渡した側ではなく受け取った側が「謝謝」と発し、「謝謝」の後に続く目的語部分も、物を渡した側の話者である。本事例の「謝謝」における、「物を渡した側の話者が発し、目的語部分が物を受け取った側」というのも、発達途中段階に出現する特徴と言えよう。また、ユウナの「謝謝妈妈」を受け、母親は09-10行目でユウナの発話を確認し、訂正はせず頭をなでることで、ユウナの発話を肯定し、認めるような態度を示している。

さらに、授受の動作が完了する前に「謝謝」が発せられる例を [断片 3] で示す。

[断片3] もっと食べるの? (会話ID: Y005_005, 1歳9か月)
((夕食後にお菓子を食べている。祖母がユウナを抱きかかえ、食卓に着いており、祖父がその隣に座っている。父親は少し離れてソファーに腰かけている。母親はキッチンで作業をしており、4人の様子を見渡せる位置にいる))

01 祖母: もっと?(1.1)もっと?(.)+もっと食べるの?+
ユウ +祖母が持っているお菓子の袋に手を伸ばす+

02 (1.2)

03 祖母: なんって言うの?(0.2)もっと食べるの?

04 (0.2)

05 →ユウ: 謝謝優那.

06 (0.4)

07 祖母: 謝謝ユウナじゃない(h)も(h)う(h)hhhh

08 (0.5)

09 祖母: もっと食べる人?

10 (0.4)

11 母: ちょ[うだいでしょ ユウナちゃん.

12 ユウ: [+は:い+
ユウ +手を挙げる+

13 祖母: ちょ[うだいね

14 ユウ: [+(こっち/ほしい)

⁷ 母親の呼称について、日本語の「ママ」と中国語の「妈妈 (mā ma)」は発音がほぼ同じであり、どちらを発しているのかは判別できない。ここでは可読性をふまえ、中国語で表記する。

15 ユウ +挙げていた手を、手のひらを上にしてテーブルに置き、指を動かす+
 15 祖母: そ(.)ちょうだいね+

この断片は、両親、祖父母とユウナの5人での夕食後にお菓子を食べている場面である。すでにお菓子を少し食べているが、01行目の前に、ユウナは指差しなどでお菓子をさらに食べたい、という素振りを見せている。01行目の、祖母の「もっと？」という問いかけに対し、ユウナはお菓子に向かって手を伸ばすことでさらにお菓子を要求することを示す。祖母は、すぐにはお菓子を与える、03行目で「なんって言うの？」とユウナに発話を促す。13、15行目の祖母の発話から、ここで祖母が促そうとしていたのは「ちょうだい」といった、要求を示すような発話であったことが推測できる。しかし、ユウナは05行目で「謝謝優那」と応じる。「謝謝」には要求の機能はなく、祖母は笑いながらユウナの発話の修復を開始し(07行目)、要求のやり取りをやり直そうとする(09行目)。ここでは、「もっと食べる人?」のように、03行目とは異なる形式を用いて、ユウナの発話を促している。それに対し、ユウナは10行目で「はい」と応じ、要求の意思を言語化することに成功する。

[断片1]から[断片3]では、いずれも物の受け渡し場面で「謝謝」が使用されており、[断片1]のような大人の発話の真似や、[断片3]のような大人に促されての発話だけではなく、[断片2]のような自発的な発話もあることから、ある程度「謝謝」と「物の受け渡し場面」が紐づいているように見受けられる。しかし、成人の典型的な用法である「物を受け取った側が、物を渡した側に対して、受け取った後に発する」だけでなく、物を受け取る前の要求時[断片3]や、物を渡した後[断片2]にも使用されることから、「謝謝」の「感謝」の意の理解については未だ発達の途中段階であることがわかる。

4. 2 「謝謝」の構文的特徴

本節では、日中バイリンガル児の「謝謝」の構文上の特徴について述べる。2.2節で述べた通り、「謝謝」は「ありがとう」を表す動詞であり、(1)単独で使用、(2)「謝謝+感謝される対象」、(3)「感謝される対象+謝謝」、(4)「感謝する主体+謝謝+感謝される対象」の構文で使用される場合がある。よって、物の受け渡し場面では、典型的には(1a)単独、(2a)「謝謝+物を渡した側」、(3a)「物を渡した側+謝謝」、(4a)「物を受け取る側+謝謝+物を渡した側」の4パターンの構文が出現する。

4.1節で既に、「謝謝」の単独使用[断片1]、「謝謝+物を受け取る側」[断片2][断片3]の使用例があることを示したが、ここではその他の構文の出現例を見る。

[断片4] キクラゲですか? (会話ID: Y005_005, 1歳9か月)
 ((ユウナ、両親、祖父母の5名で食卓を囲む))
 01 祖母: ユウナちゃん[キクラゲ]ですか?
 02 ユウ: [いいよ [いいよ(.)いいよ
 03 祖母: いいよ
 04 母: .hh.hh.hh
 05 ユウ: [はい
 06 祖母: [いいよじや★ないはいって
 祖母 ★キクラゲを取ってユウナのお皿に乗せる★
 07 →ユウ: (ばあば謝謝)ば★あば謝謝
 08 (0.2)

- 09 母: うん
 10 祖母: ★は:い
 祖母 ★キクラゲを取ってユウナのお皿に乗せる★
 11 母: ばあば謝謝★
 12 祖母: ね(.)はいどうじょ(0.5)キクラゲいっぱいね:

〔断片4〕は家族での食事中、祖母がユウナにキクラゲを取り与える場面である。01行目の祖母の、キクラゲが欲しいのかという確認要求に対し、ユウナは「いいよ」や「はい」を用いて肯定的に応じる(02、05行目)。幼児に特徴的な発話を受け、母と祖母は笑い(04行目)や修復(05行目)で応じるが、同時に祖母はユウナが要求したキクラゲを取って与える。それを見たユウナが07行目ですぐに「ばあば謝謝」と応じるのを聞いて、母と祖母は「うん」(09行目)、「はーい」、さらに多くのキクラゲを与える行動(10行目)などによって、ユウナの発話を承認する。ここでは、「物を渡した側+謝謝」の構文が使用されている。

次に、「物を渡した側+謝謝+物を受け取った側」の構文の使用例を、〔断片5〕で提示する。成人の典型的な用法とは、主語・目的語位置が逆になっている。

- 〔断片5〕キクラゲおいしい (会話ID: Y005_005, 1歳9か月)
 ((食事中。〔断片4〕の数分後。ユウナが口に入れた物を飲み込んだことを母親が確認した後))
- 01 母 ((キクラゲを取ってユウナのお皿に置く))
 02 母: はい
 03 +(2.7)
 ユウ +取ってもらったキクラゲを口に運ぶ+
 04 祖母: あ:お+
 05 (0.5)
 06 母: ん::[:(食べながら)]
 07 祖母: [あ::らおいしい
 08 (0.5)
 09 祖母: なんって★言うの?
 祖母 ★ユウナの方に身を乗り出す★
 10 母: 这★是什[么]肉. ((父親に対して))
 【これ何の肉?】
 11 祖母: [おいしい?
 12 (0.4)
 13 →ユウ: 妈妈谢[謝]優那.
 14 父: [猪肉. ((母親に対して))
 【豚肉】
 15 (0.2)
 16 祖母: ママ[謝謝]ユウナ.
 17 母: [回锅肉是这个? ((父親に対して))
 【ホイコーローってこれ (この肉) ?】
 18 (1.3)
 19 祖母: ママ謝謝ユウナ.

〔断片5〕では、母親にとってもらったキクラゲを、ユウナが黙って口に運んでいる(03行目)。それを見ていた祖母が、09行目で身を乗り出しながらユウナに発話を促し、返事がないユウナに対し11行目でさらに質問を続ける。それを受けユウナは13行目で「妈妈谢谢優

那」と応じる。この場面では、母親が物を渡した側で、ユウナは受け取った側であるため、成人の中国語話者であれば「優那謝謝妈妈」と発話すべきである。ユウナの発話では主語・目的語位置が逆転しているが、物の受け渡しに参加している話者を構文の中に組み込むことはできている。祖母は16、19行目でユウナの発話を繰り返し、肯定的な反応を返している。なお、ユウナと祖母のやり取りと同じタイミングで、両親は中国語で別の話題（メニューのホイコーローに使用している肉）についてやり取りしている。

以上の事例から、ユウナの「謝謝」の構文的バリエーションは、成人の典型的な用法である、単独使用、「謝謝+物を渡した側」、「物を渡した側+謝謝」、「物を受け取る側+謝謝+物を渡した側」の4パターンよりも多く、「謝謝+物を受け取る側」や「物を渡した側+謝謝+物を受け取った側」もあることがわかる。また、成人の典型的な用法に合致するかどうかによって、両親や祖父母の反応が異なることも興味深い。〔断片1〕、〔断片4〕では、成人の典型的な用法と合致する構文を使用しており、それを受けた父や祖母の反応も、うなずきや賞賛を示すジェスチャー〔断片1・12行目〕や、「うん」や「はーい」などの肯定的な反応〔断片4・09-10行目〕であった。〔断片3〕では、成人の典型的な用法とは異なる構文が使用されており、母や祖母から間違いの指摘（07行目）や修復（11行目）が行われている。

〔断片5〕や〔断片2〕の「謝謝」も、成人の典型的な用法とは異なるが、養育者からの修復は行われていない。〔断片5〕については、ユウナは非中国語話者である祖母とのやり取りで「謝謝」と発している。発話の直接的な受け手である祖母は、「謝謝」の意味は理解していたとしても、構文的な規則について指摘する中国語能力は持ち合わせていない。一方中国語話者である両親は、同じタイミングで別のやり取りをしていたため、ユウナと祖母のやり取りに参加していない。そのために修復などの指摘がなかったと考えられる。

〔断片2〕において、「謝謝」の受け手である母親は中国語話者であるが、ユウナの構文上の誤りについて指摘や修復は行っていない。その理由について、今回のデータだけでは根拠は不十分だが、ユウナの発話の自発性が関係している可能性がある。ユウナの「謝謝」発話は、養育者の真似〔断片1・10行目〕や促し〔断片3・03行目；断片5・09行目〕がかかわっているものが多い。しかし、〔断片2〕では母親による促しや母親の発話の真似ではなく、自発的に「謝謝」が産出されている。自発的な「謝謝」に対して、指摘や訂正をせず、まずはその発話を肯定することを優先した可能性がある。

4. 3 「謝謝」発話における養育者の役割

本節では、ユウナの「謝謝」の使用における、父親、祖母、母親の役割について論じる。すでに示した5つの断片からわかる通り、ユウナは中国語話者の父親や、中国語も話す母親とだけではなく、非中国語話者の祖母とのやり取りでも「謝謝」を用いている。ここでは、3人の養育者の役割について事例を提示し、論じる。

まずは中国語話者である父親についてである。3節で述べた通り、父親の母語は中国語であり、ユウナとのやり取りでも、簡単な語彙や指示以外は中国語を用いる。父親はユウナの「謝謝」の使用において、直接的なインプットをしている。〔断片6〕は、別の日にユウナ家に祖父母が来訪し、夕食を共にした後の遊びでの会話である。

〔断片6〕おはじき（会話ID：Y005_009, 2歳0か月）

((祖母とユウナでおはじき遊びをしていたが、テーブルからおはじきをばらまいてしまう。隣の部屋にいた父親がそれに気づき、落ちていたおはじきを拾いにやってくる))

- 01 祖母: ダメだダメだユウちゃんあ:::大変+大変(.)パパが拾ってくれてるよ?
ユウ +父親を注視する+
- 02 (1.7)*(0.8)*+(0.7)
父 *拾い集めたおはじきをテーブルに置く*
- 03 (0.7)
- 04 祖母: ありがと+は?
ユウ +テーブルに置かれたおはじきを取る+
- 05 ユウ: 。い:と。+
- 06 (0.7)
- 07 祖母: *ありがと:って.
父 *再度拾ったおはじきをテーブルに置く*
- 08 +(0.7)*(0.4)+
ユウ +再度テーブルに置かれたおはじきを取る+
- 09 →父: 谢謝.
- 10 (1.1)
- 11 祖母: ★謝謝.★
祖母 ★ユウナの方に身を乗り出す★
- 12 (0.7)
- 13 父: 谢謝.
- 14 (0.3)
- 15 ユウ: 謝謝.
- 16 (0.3)
- 17 祖母: .hhh.hh.hh.★uhhhhh★
祖母 ★体を大きくのけぞらせる★

この断片では、テーブルから落としたおはじきを父親が拾ってユウナに渡し(01-03行目)、祖母が2回「ありがとう」を言うように促す(04行目、07行目)。ユウナは1回目に対しては「いーと」と小さめの声で応じる(05行目)が、2回目の促しに対しては返事がないまま物の受け渡しが行われている(08行目)。それを受け、父親は09行目で「謝謝」と祖母の日本語での「ありがとう」を中国語に言い換え、ユウナの発話を促す。それでも発話がないユウナに対し祖母、父親がそれぞれ1回ずつ「謝謝」を繰り返し(11、13行目)、15行目でようやくユウナの「謝謝」が産出される。

この、「父親の後に真似をして『謝謝』を産出する」というプロセスは、[断片1]でも観察されており、中国語母語話者の父親がユウナの「謝謝」の産出において、直接的なインプットの役割を担っていることがわかる。また、断片1では、ユウナの「謝謝」の産出が、父親のうなずきやグッドマークによって肯定的にフィードバックされている。

また、祖母の役割についても考えてみたい。祖母は中国語話者ではなく、「謝謝」の直接的なインプットは行っていないが、ユウナの「謝謝」の産出を促す補助的な役割を果たしている。父親による「謝謝」の後に、「謝謝」と繰り返してユウナの発話を促したり(断片6、11行目)、物を受け取った後といった感謝表現が産出されるべき場面で、「何って言うの」と発話を促したり[断片3・02行目；断片5・09行目]している。また、ユウナの「謝謝」の産出の後には、発話の繰り返し[断片5・16行目]、「はーい」[断片4・10行目]、笑い[断片6・17行目]といった肯定的なフィードバックを返しており、産出が不適切と判断した場合には訂正をしている[断片3・07行目]。このことから、祖母は、ユウナの「謝謝」の産出において、積極的なサポートをしていることがわかる。

最後に、母親の役割について見ていく。これまで提示した断片から、「謝謝」の産出の直接的な促しは観察されていないが、ユウナが産出した「謝謝」に対しては、肯定的なフィードバック [断片 2・09 行目；断片 4・09, 11 行目] や不適切な場合の修復 [断片 3・11 行目] をしており、積極的なサポート、という視点からは祖母と役割が類似していることがわかる。これ以外にも、母親は、中国語ができる養育者として別の役割を担っている。

[断片 7] なーなーなー (会話 ID: Y005_008, 2 歳 0 か月)
(母親と 2 人でおもちゃ遊びをしている))

01 ユウ: +い:::(0.7)い:::(0.5)い(0.5)う::+
 ユウ +手におもちゃをもって遊ぶ+

02 (0.7)

03 ユウ: +な:な:な:
 ユウ +手に持っていたおもちゃを母親に差し出す+

04 (0.7)+

05 ユウ: +ん:+
 ユウ +差し出した手をさらに母親に近づける+

06 母: お†
 母 †差し出されたおもちゃを受け取る †

07 ユウ: ん

08 (0.5)†(0.3)+(1.2)+(0.7)
 ユウ +手を引っ込めてもとに戻す+

09 →母: 謝謝:.

[断片 7] は、ユウナが母親と 2 人でおもちゃ遊びをしているシーンである。しばらく一人でおもちゃ遊びをしていたユウナが、03-05 行目で自分のおもちゃを母親に渡そうとする。06 行目でおもちゃを受け取った後、母親は 09 行目で「謝謝」と産出する。

この場面は、物の受け渡しにおいて、受け取った側が受け取った後に「謝謝」を産出する、という、典型的な「謝謝」の使用場面と言える。母親は自身も中国語話者であるため、普段の養育場面に「謝謝」を組み込み、場面に組み込まれた使用例の提示ができる。これもユウナの「謝謝」の発達の一助となっていることが考えられる。

5. 「ありがとう」より「謝謝」が選好される理由についての考察

以上の分析から、ユウナの「謝謝」には、相互行為上の位置や構文的に、発達途中段階の特徴がみられること、養育者は総じてユウナの「謝謝」の産出に対しサポート型なスタンスであるが、言語能力によって若干異なる役割を果たしていることが分かった。

しかし、本稿で提示した 7 つの場面では、いずれも、日本語の「ありがとう」の明確な産出はない。ユウナは国際結婚家庭で育っており、また養育における母親の使用言語が、マジョリティ言語の日本語であるため、日本語のインプットが足りない、とは考えにくい。本節では、日中バイリンガル環境で育つ対象児が、物の受け渡し場面において、なぜ日本語の「ありがとう」ではなく中国語の「謝謝」を選好しているかについて、2 つの可能性を提示する。

まずは、語彙の形態的特徴についてである。幼児の初期の語彙発達において、「ママ」や「ばいばい」など、子音と母音を一つずつ用いるか、それを繰り返す語が多用されることは多くの研究で指摘されている (Stackhouse & Wells, 1997; バックレー, 2004; 岩立・小椋, 2005, 王, 2019)。ほぼ同様の場面で使用される「謝謝」と「ありがとう」であるが、「謝謝 (xiè xie)」

の音韻構造は「ありがとう」と比べ、音節数が少ない、同じ音節が繰り返されている、といった点で、より幼児の初期の語彙の特徴に近い。そのため、「ありがとう」よりも早く習得が進んだことが考えられる。この根拠として、[断片1] や [断片6] で、「ありがとう」の促しに対しては、返事がない [断片1] か、不完全な産出 [断片6・05行目] であるのに対し、「謝謝」の促しに対してははっきりとした産出が観察されている。

2つ目に、語彙発達における言語差がかかわっている可能性がある。子どもの初期の言語発達において、どの品詞の語彙が早期に産出されるか（名詞優位か、動詞優位か）については、「子どもが初期に獲得する語彙にはものの名前を表す名詞が、動作を表す動詞よりも多く含まれる」(Gentner, 1982; Gentner & Boroditsky, 2001) ことが指摘されている。日本語を母語とする子どもも、初期の語彙は名詞が優位であることが示されている一方で(小椋, 2007)、中国語を母語とする子どもの語彙発達については、初期の段階で英語母語話者の子どもよりも動詞を多く使う事例が示されており (Tardif, 1996; Tardif, et al, 1997; Hao et al., 2015)、動詞優位の可能性があるとされている。「謝謝」は感謝を表す動詞であり、「ありがとう」は品詞的には名詞ではなく、形容詞である。日中バイリンガル環境で育つ対象児が、中国語の「謝謝」の方を先に産出したのは、先行研究によって導き出される「子どもの語彙発達は日本語では名詞優位、中国語では動詞優位」という仮説によって説明できる可能性がある。

6. おわりに

本稿では、日中国際結婚家庭に育つバイリンガル児1名の、1歳7か月から2歳0か月にかけての物の受け渡し場面における「謝謝」の使用の事例について、相互行為上の特徴を検討した。その結果、「謝謝」の使用は物の受け渡し場面にある程度紐づいているが、成人の相互行為における典型的な産出位置（物を受け取った側の話者が、物を受け取った直後に産出）とは異なる、物を受け取る前や物を渡した後での位置で産出される；成人の典型的な使用例よりも多くの構文的バリエーションがあり、「物を渡した側」、「謝謝」、「物を受け取った側」の3語の順序が十分に定着していない、など、発達の途中段階とみられる特徴が観察された。また、養育者は、総じて子どもの「謝謝」の使用に対して肯定的なスタンスを示しているが、自身の中国語能力の違いに応じて、「謝謝」の発話を直接的なインプットによって促す（中国語母語話者の父親）、日本語での産出の促しや肯定的なフィードバックによって補助的な役割を担う（非中国語話者の祖母）、産出の促しやフィードバックとともに場面に組み込まれた「謝謝」の使用例を提示する（中国語話者の母親）、といった異なる役割を担っていることがわかった。

本研究は限られた月齢の、数時間のデータを事例分析的に検討したものであり、日中バイリンガル児の「謝謝」の使用について一般化できるものではない。今後、当該児の、「物の受け渡し」以外の場面での「謝謝」や「ありがとう」の使用や、物の受け渡し場面での使用が多いとされる「どうぞ」「ちょうどい」の使用、また、「言語社会化」の観点から、その他の儀礼に関わる言葉（「你好（こんにちは）」、「对不起（ごめんなさい）」など）の使用と関連付けて考察し、分析の精緻化を進めたい。また、当該児の今後の成長段階で「謝謝」をはじめとする中国語の発話がどのように変化していくかについて検討するためには、より長期間の事例が必要である。今後コーパスの構築を進める過程で事例の蓄積を進め、月齢が上がるにつれて、「謝謝」や関連する語彙の使用がどのように変化していくか、考察を進めていきたい。

謝 辞

本研究は、科研費基盤(B)「多様な場面の日常会話データに基づく子どものコミュニケーション行動の解明(20H01264)」の研究成果を報告したものである。

文 献

- Belinda Buckley. (2003). *Children's Communication Skills: From Birth to Five Years*. London: Routledge. [B. バックレイ (著), 丸野俊一 (監訳) (2004)『0歳~5歳児までのコミュニケーションスキルの発達と診断: 子ども親専門家をつなぐ』, 北大路書房]
- Fred Genesee. (1989). Early bilingual development: One language or two?, *Journal of Child Language*, 16:1, pp. 161–179.
- Dedre Gentner. (1982). Why nouns are learned before verbs: Linguistic relativity versus natural partitioning. In: Stan A. Kuczaj (ed.) *Language Development, vol. 2: Language, Thought, and Culture*, pp. 301–334. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Dedre Gentner and Lera Boroditsky. (2001). Individuation, relativity, and early word learning. In: Merissa Bowerman and Stephen Levinson (eds.) *Language Acquisition and Conceptual Development*, pp. 215–256. Cambridge: Cambridge University Press
- Meiling Hao, Youyi Liu, Hua Shu, Ailing Xing, Ying Jiang, and Ping Li. (2015). Developmental changes in the early child lexicon in Mandarin Chinese. *Journal of Child Language*, 42:3, pp. 505–537.
- Gail Jefferson. (2004). Glossary of transcript symbols with an introduction. In Lerner, G. H. (ed.), *Conversation Analysis: Studies from the First Generation*, pp. 13–31. Amsterdam: John Benjamins.
- Maria Juan-Garau, and Carmen Pérez-Vidal. (2001). Mixing and pragmatic parental strategies in early bilingual acquisition. *Journal of Child Language*, 28:1, pp. 59–86.
- Lorenza Mondada. (2007). Multimodal resources for turn-taking. *Discourse Studies*, 9:2, pp. 194–225
- Els Oksaar. (1989). Psycholinguistic aspects of bilingualism, *Journal of Multilingual & Multicultural Development*, 10:1, pp. 33–46.
- Joy Stackhouse and Bill Wells. (1997). *Children's Speech and Literacy Difficulties: A Psycholinguistic Framework*. London: Whurr Publishers Ltd.
- Twila Tardif. (1996). Nouns are not always learned before verbs: Evidence from Mandarin speakers' early vocabularies. *Developmental Psychology*, 32: pp. 492–504.
- Twila Tardif, Marilyn Shatz, and Letitia Naigles. (1997). Caregiver speech and children's use of noun versus verbs: A comparison of English, Italian, and Mandarin. *Journal of Child Language*, 24:1, pp. 535–565.
- Virginia Volterra, and Traute Taeschner. (1978). The acquisition and development of language by bilingual children. *Journal of Child Language*, 5:2, pp. 311–326.
- 居關友里子・小磯花絵 (2020)「子ども-保護者間会話における〔要求-拒否〕のやり取り」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』, 5, pp. 293–300.
- 岩立志津夫・小椋たみ子 (編) (2005)『よくわかる言語発達』, ミネルヴァ書房.
- 王漫 (2019)「日中バイリンガル幼児の言語習得初期における語彙の発達: 2才1ヶ月までの発話を中心に」『人文研究』, 198, pp. 131–180.

小磯花絵・居關友里子・柏野和佳子・角田ゆかり・田中弥生・宮城信 (2020) 「子どもの会話コーパスの構築に向けて」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』,5, pp. 157–163.

高飛 (2021) 「日本語と中国語のバイリンガルの子どもにおける語彙の発達」『MHB 学会2021 年度研究大会予稿集』, pp. 34–35.

田中弥生・膝越・小磯花絵 (2021) 「作業遂行時における幼児と母親の会話のスタイルシフトと脱文脈化」『社会言語科学会第 45 回大会発表論文集』 pp. 172–175

マーハ・ジョン・C・八代京子 (編著) 『日本のバイリンガリズム』, 研究社出版.

付 錄

発話（行番号、及び「参与者:」で明朝体で示したもの）の書き起こし記号は Jefferson(2004), 身体行動（「参与者」（コロンなし）でゴチック体で示したもの）の書き起こし記号は Mondada (2007) を参考にした。以下に詳細を示す：

(m.n)	無音区間の秒数	*行動*	父親の身体行動の区切り
(.)	短い無音区間	+行動+	ユウナの身体行動の区切り
[発話]	発話の重なり	†行動†	母親の身体行動の区切り
発話::	音の引き延ばし	★行動★	祖母の身体行動の区切り
=発話	前の発話と密着している	発話やポーズの書き起こしに身体行動の記号がある場合は、発話・ポーズから見た身体行動のタイミングを示す。	
° 発話	音量の小さい発話		
<u>発話</u>	音量の大きい発話、または強調		
発話.	下降調の語尾		
発話?	上昇調の語尾		
(発話)	聞き取りが確定できない発話		
((説明))	断片に関する説明		
h	呼気音、笑い		
.h	吸気音、笑い		